

院内報「みらい」(とっさの応急手当「腰を打った」)

高齢者が転んで尻もちをつき、身動きが取れないくらい腰が痛むと訴えるときは、身体を無理に動かそうとせずに、次のような処置をして救急車を待ちましょう。

高齢者が腰を打って激痛を訴える場合、最も可能性の高いのは腰椎が圧迫されて起こる骨折です。日本では、65歳以上の女性の約半数、70歳以上の男性の約20%が骨粗しょう症にかかっているといわれています。骨粗しょう症にかかり、骨の密度が低下していると、ちょっと転んで尻もちをついただけで腰椎がつぶれてしまう事があります。

ただし、高齢者の場合、単純にすべって転倒する以外に、脳梗塞で一瞬気を失ったり、手足にまひが出て転んだ、ということも少なくありません。実際、寒い季節に多いのは、朝、トイレで具合が悪くなり倒れて起こるケースです。

単純な骨折なら痛みはあっても命に別状はありませんが、脳梗塞などが起きているときには事は重大です。ですから、応急処置では、その場で楽な姿勢をとらせて、にあるような意識の有無や手足のまひの確認をすることが大事になります。

意識があり、打った個所以外に異変がないようなら、救急車が到着するまで、そばに付き添って励ましてあげましょう。

